

「委員会」各位

2021年6月末日

NPO 法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」

委員長（理事長） 養老孟司

「日本に健全な森をつくり直す委員会」の皆様。

猛暑が予想されている中で、「コロナ」はまだ元気。オリンピックはどうなるか？

去年は、私が「心筋梗塞」で手術して心配させてしまいました。ありがとうございました。

今は、体重も元にもどり、元気に「ゾウムシ」と遊んでいます。

この入院でわかったのは、「あんなにタバコを吸っているのに、ガンはどこにもなかった」こと。私は、95才まで生きて、93才まで小児科現役医者であった母のように、長く生きるのかも・・・。

80才の時に(今は83才)、「委員会」の事務局長の天野礼子さんに、「そろそろ委員長を引退しましょうか」とお尋ねしましたら、「先生がゾウムシ採りをやめるのならば引退してもよろしいです」と言われました。

ということなので、これからも「この“委員会”の代表」を続けます(笑)。

今年から、齊藤幸平さん(『人新世の「資本論」』の著者)が、仲間に入ってくれました。

ということは、私のような“年寄り”の仕事は、昔から言われてきたことを若い人達に伝えることだと思っています。

今日は、三つの本を紹介します。皆さんも読んでみて下さい。

・「生神」(著者・小泉八雲・本名ラフガディオ・ハーン)

「大むかしから、日本の海岸は幾世紀かの不規則な間隔をおいて、非常に大きな高潮 - 地震や海底の火山活動のためにおこる高潮におそわれてきた。」

・「神話と地球物理学」(寺田寅彦)

「われわれのように地球物理学関係の研究に従事しているものが国々の神話などを読む場合に一番気をつくことは、それらの説話の中のその国々の気候風土の特徴が濃厚に印銘されており浸潤していることである。(・・・続く。)

まず第一にこの国が島国であることが神代史の第一ページにおいてすでにきわめて明瞭に表現されている。また、日本海海岸には目立たなくて太平洋海岸に顕著な現象を表徴する記事もある。

島が生まれるという記事なども、地球物理学的に解釈すると、海底火山の噴出、あるいは地震による海底の隆起によって海中に島が現れあるいは、暗礁が露出する現象、あるいはまた河口における三角洲の出現などを連想させるものがある。」

・「スマホを捨てたい子どもたち」(著者・山極寿一 前・京都大学総長)

時々本を読んで「これから10年後の日本がどうなったらよいか」を、皆さんと一緒に考えましょう。

9月11日には、品川で、あるいはZOOMでお逢いしましょう。